

## 6. 年金者組合・近藤代議員

年金者組合が誕生して 21 年になる。その綱領には、個人として尊ばれ平和の内に存する権利を有するとして、憲法理念を生かし、老後を豊かに楽しく過ごす要求で団結する組織とされています。年金、医療、社会保障制度の確立は老後を過ごす者にとって大切な要求だ。しかし、高齢者の置かれている状況は厳しく団結して運動を進める課題として考えたい。生活保護基準以下で生活する高齢者は 250 万人に達し、高齢者は貧困化している。また、年間自殺者 3 万人の 30% は高齢者が占める。政府の貧困な政策は 2700 万人の高齢者の尊厳を冒している。その収入はモデル年金で 23.26 万円（40 年間平均賃金の老齢年金者）だが、住民税天引き対象者は 670 万人にすぎない。そのうち高齢者は 23% にすぎない。年金課税者が増えているにもかかわらず、高齢者の 4 分の 3 は課税されない。無年金者は 100 万人であり、100 万円以下の女性は 4 分の 3 にもなっています。年金問題を解決するためにはどうしたらいいのか。年金が高くて払えないというのが現実だ。民主党が提案している最低年金保証制度は現在の年金制度を一本化して、所得比例年金で一定額以下の人に消費税を財源として保障する制度だ。しかし、この年金制度はすべての高齢者の生活を保障する制度ではない。現在の無年金者を救うのが最低保障年金制度だ。民主党の案にはこの保証がない。年金者組合は 10 月 15 日に年金者一揆を行う。署名と合わせてご協力を。